

第Ⅲ部 今年度の事業内容と次年度以降の課題

1 委員会事業の概要

(1) 広島県合同輸血療法委員会の開催 (H24. 7. 28)

平成 23 年度に設置し、2 年目を迎えた「広島県合同輸血療法委員会」の活動として、7 月 28 日に委員会を開催した。委員会では、前年度の事業報告及び今年度の事業内容の検討を行い、各委員から了承を得た。また、特別講演として、旭川医科大学病院紀野修一准教授から「旭川医科大学病院における輸血療法委員会活動～血液製剤適正使用方針の策定とその効果～」と題した御講演をいただいた。

厚生労働省からの委託事業として、研究事業を実施することにも了承が得られた。

今年度も引き続き、幹事会において事業内容等を調整しながら実施することとした。(詳細は、「第Ⅰ部 広島県合同輸血療法委員会」のとおり)

《幹事会構成》

(H25. 7. 9現在)

| 役職 | 氏名 | 所属 | 備考 |
|---------|-------|----------------------|--------|
| 委員長 | 高田 昇 | 広島文化学園大学看護学部看護学科 | 教授(医師) |
| 副委員長 | 藤井輝久 | 広島大学病院 輸血部長 | 医師 |
| 幹事 | 岩戸康治 | 広島赤十字・原爆病院 輸血部長 | 医師 |
| | 二宮基樹 | 市立広島市民病院 副院長 | 医師 |
| | 小野和身 | 市立福山市民病院 中央手術部長 | 医師 |
| | 荒谷千登美 | 呉共済病院検査部輸血科主任 | 臨床検査技師 |
| 国委託事業担当 | 田中純子 | 広島大学大学院医歯薬保健学研究院 | 教授 |
| 事務局 | 古本雅明 | 広島県赤十字血液センター学術・品質情報課 | |
| | 山口まみ | 広島県健康福祉局薬務課 | |

《幹事会の活動状況》

| 開催回 | 年月日 | 概要 | 出席者 |
|-----------------------------|---------------------------------------|--|---|
| 第1回 (県庁) | H24. 5. 12 (土) 15:00～ 17:20 | 1 平成23年度の報告 2 平成24年度広島県合同輸血療法委員会の開催について 3 平成24年度のアンケート実施について 4 平成24年度委託事業への応募 5 平成24年度年間計画 | 高田, 藤井, 岩戸, 荒谷, 田中, 古本, 應和, 山口 |
| 第2回 (県赤十字 血液センタ ー) | H24. 9. 8 (土) 15:00～ 17:00 | 1 県内医療機関への適正使用状況等実態調査について 2 医療機関訪問相談事業について 3 平成24年度研修会について 4 厚生労働省「血液製剤適正化方策調査研究事業」の受託について | 高田, 藤井, 岩戸, 小野, 荒谷, 古本, 應和, 山口 |
| 第3回 (県赤十字 血液センタ ー) | H24. 12. 15 (土) 15:00～ 17:00 | 1 研修会の開催について 2 医療機関からの相談応需事業について 3 アンケート調査の状況について 4 厚生労働省受託研究事業について | 高田, 藤井, 岩戸, 小野, 荒谷, 田中, 古本, 山口 |
| 第4回 (県庁) | H25. 3. 16 (土) 15:00～ 17:20 | 1 平成24年度輸血療法委員会報告書の作成について 2 訪問相談事業の通知内容について 3 平成25年度合同輸血療法委員会の開催について | 高田, 藤井, 岩戸, 荒谷, 田中, 山口 |

(2) 広島県合同輸血療法研修会の開催(H25. 2. 2)

県内医療機関等から、158名（医師15名，薬剤師21名，看護師34名，臨床検査技師79名及びその他9名）の参加を得て開催した。プログラムは，特別講演として順天堂大学医学部・ペインクリニック講座から稲田教授をお招きして「『危機的出欠対応ガイドライン』を生かすために」について講演をいただいたほか，県内医療機関の輸血療法の状況を調査したアンケート結果報告や医療機関の取組み事例等の発表により，研修を行った。

（詳細は，「第Ⅱ部 広島県合同輸血療法研修会」のとおり）

(3) 県内医療機関における輸血療法の推進に向けた相談応需

- 今年度から，医療機関を訪問して相談応需業務を行う事業を新たに実施することとし，県内の医療機関から「輸血療法に関すること」について相談応需の希望を募り，申込みのあった医療機関を訪問して相談に応需した。（2医療機関で実施）

<実施概要>

1 目的

県内の医療機関において，血液製剤の適正使用について，指針への適合を模索している機関に対し，助言及び実地指導を行い，県全体の輸血療法の標準化を図ることを目的として実施した。

2 内容

各医療機関が，血液製剤をどのように使用しているか，実際に医療機関を訪問して確認し，医療機関からの相談に応需するものである。

医療機関からの支援要望に対して，施設規模にかかわらず輸血医療の底上げを図るもので，「出前研修とコンサルティング」をイメージしている。

日本輸血・細胞治療学会のI & Aマニュアルを参考に委員会で独自のチェックリストを作成し，医療機関及び訪問者の相互で確認しながら実施した。

（チェックリストは以下に掲載）

3 実施医療機関

(1) 平成 25 年 1 月 30 日 病院 A

(2) 平成 25 年 2 月 13 日 病院 B

4 実施者

広島県合同輸血療法委員会の委員（医師及び検査技師）及び事務局（赤十字血液センター職員及び薬務課職員） ※ 一部外部委員に委託

5 実施結果の概要

（主な改善をお願いしたい事項，今後検討いただきたい事項等）

- ・輸血療法委員会を規約内の組織とすることの検討
- ・書類等の電子化に際しての情報周知手段の工夫
- ・FFPの専用溶解装置の必要な部署への配置
- ・輸血療法のIT化推進（手術室等における患者認証と病院システムとの同期）
- ・廃棄率の減少に向けた取組（血液製剤の在庫状況確認システムの整備等）
- ・輸血後の検査の実施に向けての患者への説明方法の検討
- ・輸血後のバッグの保存実施
- ・血液製剤保管方法の適正化（自己血の専用保管庫の整備）

